

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.6

2006.2.15

発行/市民活動サポートセンターいなぎ
運営協議会

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

一緒に事業を 企画・実施しませんか

「サポートセンター」では、市内の市民活動団体が行なおうとしている事業に対し、企画の段階から一緒に参加し、事前準備やPR、当日の運営などをお手伝いする「共同企画事業」を行うことになりました。

★ ★

今回はその第一弾目として、右の事業を企画しましたが、他にも、例えば講演会、学習会、シンポジウム、まつりなど、様々な事業が考えられます。

★ ★

事業を予定しているけれども、一緒に考えて欲しい、人手が足りないので準備や当日の運営を手伝って欲しい、サポートセンターのニュースやホームページでPRして欲しいといった希望をお持ちの団体はお気軽にご相談ください。お待ちしております。

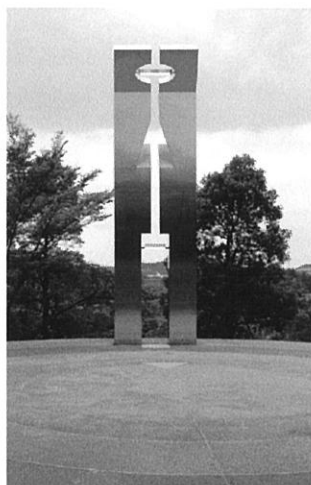
稲城のまち歩き ①

(タウン・ウォッチング)

共同企画事業

●若葉台から向陽台へ パブリック・アートを 探して歩く

3月26日(日)に開催



▲長峰、光の広場

「まち歩き(タウン・ウォッチング)は、街という空間を使った遊びと考へ、ただ、のんびりと歩き出せばいい」とは森まゆみさんのコトバ、そしてそのコツはスタート地点とゴール地点との間をいかにおもしろく歩かにかにあるということだそうです。そんな楽しさを知ってもらうために、稲城市内のまち歩きを企画しました。

今回はその第一弾として、多摩ニュータウン区内を、パブリック・アートを探しながら歩いてみることにします。バスや車からでは分からない面白い街の仕掛けがきつと見えてくるに違いありません。ぜひご参加ください。

- ◆ 日時 3月26日(日) 午前9時半~12時半ごろ
- ◆ 集合場所 若葉台駅前北口広場(9時20分集合)
- ◆ コース 若葉台駅~第六中学校・若葉台小学校~みはらし緑地(稲城市最高地点)~若葉台公園~稲城中央公園~向陽台小学校~城山公園(解散)
- ◆ 主催 市民活動サポートセンターいなぎ 運営協議会
いなぎエコ・ミュージ
- ※ 小雨程度なら実施します。
- ※ 城山公園で自由解散となりますが、その後公園の広場で弁当を食べながらの交流も考えています。
- 申込み 市民活動サポートセンターいなぎ
電話 042-378-2112

ネットワークづくりへ初めの一步 第1回 登録団体交流会

月日：2月4日(土) 14:00~16:00

場所：稲城市地域振興プラザ4階

当日の交流会は、参加団体数14、参加人数41名で盛大に開催されました。

進行は各団体の主な活動内容の発表の後、6班に分かれグループ・ミーティングを行い、その後再び全体で発表し合うという形をとりました。

登録団体の交流会としては今回が初めての開催であり不安な面もありましたが、蓋を開けてみますと稲城に対する思いや、自分たちの活動についての将来展望・悩みなどを忌憚無く言い合える積極的な意見交換



の場となりました。

多くの団体にみられたのは資金・スタッフの問題です。特に資金面については厳しい現実がありますが、各々工夫・努力をして社会貢献を続けているようです。

ボランティア・スタッフの補充もなかなか思うに任せないところがあるようで、募集方法などの話題が

多く出ていました。

また、インターネット環境には各団体とも積極的に参加をしたいという意見が相次ぎ、サポートセンターとしてもホームページを媒介としたITネットワーク作りが急務であると感じました。特に

- ①毎月のイベントスケジュールの掲載
- ②ボランティア・スタッフ募集のページ掲載
- ③情報発信などを充実してもらいたいという要望が寄せられています。

サポートセンターの役割としては

- ①各種セミナー開催
 - ②イベント等における時間帯についての配慮
 - ③ボランティア・スタッフの紹介が望まれているようです。
- ただ、「サポートセンターいなき

ぎ」について“わかりづらい”“まだ市民に認知されていない”等の厳しい意見もみられました。

今後、こうした意見を真摯に受け止め、更に充実した活動をするにより、「サポートセンター」の存在が広く市民の皆さんに受け止めてもらえるよう努力をしていかな

ければならないと思っています。

総括の中で、「これまでの経験の通用しない時代」という言葉がありました。少子化・高齢化・貧富の格差等々のマイナスの素因が増大している今、過去の実績に捉われることなく、変化に対応した活動内容・方法論を考えていくことが必要といえ



るのではないのでしょうか。

同じ分野の団体が集まればより大規模な企画を立てることができずし、異分野の活動団体が協力し合えば活動に広がりがあります。

今後はこのような機会を捉えて手をつなぎ、稲城のまちづくりを推進していきたいという意思を確認し合えた会となりました。

交流会後の皆さんの声も、「多くの人と知り合えた」「前向きにいろいろな事が出来そうな可能性を感じた」「大きな満足を感じている」等のありがたい意見が大半を占めました。

交流会が終了した後も大多数の方々が後に残って連絡先の交換をしたり、笑顔で後片付けを手伝ってくださったりで、とても暖かい雰囲気を持ち続けることができました。

参加者の皆さん、有難うございました。

(秋廣)

市民の「話し手」が続々登場・・・いま、金曜サロンスペシャルが面白い！

金曜サロンの毎月第一週目は、話題提供者が登場するスペシャル編です。

●地球温暖化防止策は まず身近なところから

一
月

1月の金曜サロンスペシャルは、須藤智徳さん（財地球環境戦略研究機関／気候政策プロジェクト主任研究員）のお話でした。

須藤さんは、昨年モンテリオールで開かれた国際会議に小池大臣と共に出席されたばかりです。

今回のテーマは、「地球環境の最新情報」と「緑の価値について」「環境問題で地域社会や家庭でできること」でした。

地域や家庭から排出されるCO₂削減のために①冷房は28度、暖房は20度に設定しよう。②蛇口はこまめにしめよう。③電気のコンセントはこまめに抜こう。④エコ商品を選んで買おう。⑤過剰包装を断りゴミを減らそう。⑥自動車のアイドリングをなくそう。の6項目があげられました。この中からいくつかでも「これならできそう！」と思った方も多かったはずですよ。

さて、気になる稲城市が抱える山林がCO₂吸収源としてどのくらいの価値があるのか。

稲城市は南山や多摩レクリエーションセンターなどもあり、約400世帯の年間の温暖化ガス排出量に相当する2,200トンの吸収能力があります。ガリソンに換算すると家庭用乗用車約1,000台分の年間消費量に相当するそうです。

稲城市は都心にも近く緑に恵まれた街といえますが今後希少価値となる緑をいかに守っていくかということも大きな課題となりそうです。

様々なところで『地球温暖化防止策』が叫ばれています。地球規模で考える前に、身近なところから「まあっ、いいか」をやめて、日常の小さな心がけが防止策への大河の一滴となることを再認識しました。

(塩川)

●スワンで働く障害者への支援 ・・・接客でスキルアップ

二
月

2月の金曜サロンスペシャルは、大森八恵子さん（国立職業リハビリテーションセンター／職業訓練部職域開発課）に「スワンで働く障害者への支援・・・接客でスキルアップ」という題名でお話していただきました。

聴衆も40余名で会場が溢れ返りました。美味しいパンも試食出来ました。

大森さんは以前、城山の「陽だまり」でお仕事をされておられ、その時書かれた文章が切っ掛けで、「スワンベーカリー赤坂店」の立ち上げをお手伝いすることになったそうです。

この「スワンベーカリー」は「障害のある人もない人も、共に働き、共に生きてゆく社会の実現」という理念を実現させるためにヤマト運輸株式会社の故小倉理事長が設立した株式会社です。今では全国に17店舗（今年中に19店舗）を展開しています。

今、赤坂店は従業員24名、そのうち10名が知的障害者、4名が精神障害者です。

商品は品質にこだわり、徹底した差別化で売上も順調です。一般には障害者のお店というと健常者の「少しでも力になりたい」という気持ちに頼る面がありますが、ここではそういう甘えの気持は一切ありません。「障害者の作業所」といって障害者が主役のお店もありますが、この主役は一般のお店と同じく主役はお客様です。それだけにそれなりの、都の最低賃金、時給714円を上回る平均750円を支払っています。熟練者には830円払っています。知的障害者は仕事を覚えるまでに時間が掛かりますが、覚えたら、一生懸命にやり決して手を抜くことをしません。接客の仕事を通してどんどんスキルアップしていきます。そして自立を目指します。

昨年からは国立職業リハビリテーションセンターでは接客の訓練を通してコミュニケーション能力をアップさせることに取り組んでいます。どんな仕事につくにしても大事なスキルだからです。

(豊間根)

稲城市青少年育成
坂浜地区委員会

坂浜の「どんど焼き」 ～地域が子どもを育む～

委員長 榎本三守さん

1月9日、坂浜の「塞の神」(セーノカミ)は、約600名が参加して行われました。

この「どんど焼き」は、1年の幸いと健康を祈念する正月の行事です。

子ども達が主役の「セーノカミ」は、昭和50年に復活されました。地元では、「日本一」だと自慢しています。

主催する坂浜地区委員会では、坂浜、長峰、若葉台の教育力を高めることも目的としています。

「塞の神」づくり(高さ約15メートルの祠)は、前日に約60名(子ども20名)が参加して行われました。まず、8本の支柱(孟宗竹)を組み、八角形の祠を建てます。周りには、孟宗竹を約100本、ほだ木、篠だけ、正月の飾り物、書初めなどが置かれて完成です。子ども達と大人



▲点火した火は、あつと言う間に大きな炎の柱に

の共同の作業は、笑い声の中で手際よく進められていきました。

この祠には、昔子ども達が一晩泊まって楽しく過ごしていたようです。

★ ★

「塞の神」の「御炊き上げ」は、午前10時に始まりました。点火した火は、あつと言う間に約20メートル近い大きな炎の柱となります。そして約20分後、猛烈な炎は、最高点に達しました。参加者からは、歓声とどよめきの声があがりました。消防団は、風下の竹やぶに飛び火しないように、2か所から放水を続けていま

す。30分後には、ほぼ終焉です。

炎がおさまると、参加者全員が「まゆだま」(ダンゴ)を焼いて一年の無病息災を祈念して食べます。この「まゆだま」は、1月7日に約50名(子ども30名)が参加し、約1,800個を作りました。「まゆだま」は、蒸してから少し乾かし、篠だけに3個ずつ刺して約600本作ったものです。最後には、大人が用意したお餅やみかんを食べて終わります。

★ ★

「塞の神」を知らない坂浜の子どもは、ほとんどいません。最近の小学生を対象にしたアンケートでは、4年生から6年生全員が知っており、ほぼ全員が参加していまし



▲焼いた「まゆだま」を食べて無病息災を祈念

た。低学年になるとやや下がる傾向でした。

代表の榎本さん(坂浜の豆腐屋さん)は、私が育ったよ

うに「子どもは地域で育て守ります」「子ども達には、ぜひ後を継いでもらいたい良い祭りにして欲しい」とやさしい笑顔で話してくれました。

★ ★

坂浜地区委員会の年間の活動は、子ども達が主役で15回ほどあります。主なものは、「塞の神」(3日間)「少年キャンプ」(2日間)「盆踊り」「運動会」「親子ハイキング」など多彩です。地域社会は、「学校の外の学校」といわれています。地域の様々な行事は、子ども達の異年齢交流や大人達とのかかわりが、社会

で生きるための力を育みます。子ども達の人格形成や豊かな心



▲この日は地元消防団も大活躍

を育む教育力を持っています。(地区委員会の資料より)

また、坂浜地区の老若男女が集い協働して行う年間の活動(行事)は、実に多種多彩です。坂浜の17団体が行う活動は、

1年間で約150日にもなりません。1か月の半分近くは、どこかで協働して活動が行われ、楽しく集い、語らいの場になっています。大人も子ども達も、誰もが何らかの役割を持ち、居心地の良い居場所となっています。(坂井)

「どんど焼き」に代表されるこうした伝統行事は、稲城市内の他の地域でも大切に受け継がれ、いまでも盛んに行われています。

そして、それが稲城の地域力を育む大きな原動力になっているように思えます。



NPO講座《Ⅲ体験編》

1月25日に、NPO講座《Ⅲ体験編》を行いました。これは、すでに市内でNPO法人を取得して活動している団体に、設立準備から実際に活動したの問題点などを発表していただいたものです。

NPOセンター 鎌倉を視察

NPOセンター鎌倉は、公設・市民運営方式を最初に導入したセンターとして、全国的にも注目されています。

稲城市の運営協議会では、その先駆的な実践を学ぶため、2月8日に、同センターを視察・研修してきましたが、とても参考になりました。

説明していただいた鎌倉の
渡邊事務局長を囲んで▼



運営協議会

ほうこく

役員会・全体会

12月12日(月)と1月10日(火)午後5時から6時まで役員会を、引き続き8時まで運営協議会を開催し、次の議題について協議しました。

12月12日

【センター運営に関して】

- ① 利用登録申請団体の承認
 - ・稲城市身体障害者福祉協会
 - ・全日本年金者組合多摩稲城支部
 - ・日良好の会
 - ・ぐるんぱの絵本隊

以上4団体

- ② 各部会・事務局・NPO法人設立準備委員会の報告
- ③ 議事録などの文書について

【事業企画に関して】

- ・NPO講座Ⅲ体験編について
- ・サポーターバンクについて
- ・金曜サロンスペシャルについて
- ・市民活動団体との共同企画事業について

【広報・ホームページに関して】

- ・ニュースレター増刷について
- ・ホームページについて

1月10日

【センター運営に関して】

- ①利用登録団体の承認
 - ・青少年育成向陽台地区委員会
 - ・NPO法人発見工房科学対話グループ

以上2団体

- ② 各部会・事務局・NPO法人設立準備委員会の報告
- ③ 文書のチェック体制について

【事業企画に関して】

- ・利用登録団体交流会について
- ・金曜サロンスペシャルについて
- ・NPOセンター鎌倉の視察研修について

【広報・ホームページに関して】

- ・ニュースレター6号(2/15発行)について
- ・市民の投稿や写真・行事案内などをホームページに随時掲載する件について

3月の・・・

金曜サロンスペシャル

◇日時／3月3日(金)
午後7時から

◇話し手／坂井カさん
(市民活動サポートセンターいなぎ 運営協議会メンバー)

◇話題／若葉台のまちづくり・夢づくり・コミュニティづくり

編集後記

私は、向陽台ができた頃引越してきたので、もう十五年以上稲城に住んでいます。でも、平日は家と駅の往復、週末は近所の大型スーパーでの買い物くらいです。だから稲城の事は家の周りの様子や市の広報くらいでしか知りませんでした。

しかし一昨年、市民活動サポーターセンターに参加して、ボランティアや福祉など様々な分野で活躍している人と知り合うことができました。

多くの人達からたくさんのお話を教えてもらい仲間となつていくことで、単なる情報ではなくて幅広い奥行きのある立体的なイメージの稲城を知る事ができたように思います。同じ稲城に住んでいながら、これまでとは違った新しい世界を見つけたように思います。

団塊の世代がリタイアする時代になりますが、今度は、あなたが稲城の新しい世界を見つけてみませんか？

サポーターセンターもお手伝いしますよ。
(川本)